

# 福田ちえ 議会質問 通算27回目 令和5年9月議会、質問に立つ

9月7日(木)  
議会一般質問



←質問の  
録画映像



【質問・答弁】紙面の都合上、一部抜粋

## 1 認知症の本人とその家族が地域で安心して暮らせるまちづくり

明石市の「認知症あんしんプロジェクト」、大田区の「みま～も」と「高齢者見守りキーホルダー・高齢者見守りシール」の事例をもとに、認知症の早期発見につながる施策の充実と、認知症見守りグッズの工夫を求めた。

**答:市長** 他市事例も参考に、認知症の早期発見につながる施策の充実に取り組み、地域共生社会の実現に向け、地域で安心して暮らせるまちづくりを支援する。

## 2 誰も断らない宇都宮市の相談窓口と体制

なんでも気軽に相談できる共生型の地域包括支援センター「エールU」が設置されたが、市HPにもっと分かりやすく明示すべきと提言。

つながりサポート女性支援事業「つなサポ」やフードバンクなどへ、複雑多様化する相談が寄せられ、誰も断らない相談窓口の一翼を担っている。更に「つなサポ」は女性相談所の機能も一部担っていると言えることから、民間との連携を強化すべきと考え、市の見解を確認した。

**答:保健福祉部長** 複雑化・複合化する相談は円滑に「エールU」や多機関協働事業所へつなげるよう、研修会や重層的支援会議などあらゆる機会を通して情報共有と連携を強化する。「つなサポ」は様々な分野で活動する83団体との連携により相談体制を構築しており、重層的支援体制整備事業を推進する重要な役割を担うものと認識している。今後は女性相談所の職員が協力団体に直接出向き相談対応上の課題や相談者のニーズ把握を通して更なる関係性の構築を図りながら、女性相談・支援の充実・強化を図るとともに、事業を継続する。

## 3 フードバンク活動の普及と推進

食糧が再配分されるため、フードドライブ受付窓口は「ごみ減量課」と別の愛称が良いと提言。市が食糧を集め、再配分に関しては民間フードバンクが担える部分は民間へ委託してはどうか。生活困窮者の自立支援として、生活福祉課内にフードバンクの窓口を設置してはどうか伺う。

## 4 (仮称)子どもを守る都市宣言の具現化

宣言の実践に向けては、大人も子どもも話し合う機会を設けていく必要がある。また、学校に行けない児童生徒や特別な配慮を必要とする子ども・若者からも、丁寧な聞き取りを行うことを提言し、今後の対応を求めた。

川崎市が「川崎市子どもの権利条例」の具現化として「子ども夢パーク」を設置したように、本市における宣言の具現化について見解を伺う。

**答:市長** あらゆる機会を捉えた周知に取り組むことにより、家庭や地域で宣言について話し合う機会の確保に努めていく。配慮が必要な子どもたちからの意見聴取は、施設等へ出向いての意見の聞き取りなども含め、より効果的な手法を検討していく。宣言の具現化については、宣言の策定と併せて、新たな施策・事業についても来年度からの実施に向け検討を進めていく。

## 5 環境負荷を軽減する農業支援

空き家やビルを活用して次世代の循環型農業や宇都宮ブランドとして有機栽培とアクアポニックスを推進していくことについて見解を伺う。

## 6 人事制度の運用

福祉分野は特に退職職員にはこれまで培ってきた知識や経験の活用を図ってもらいたいと考えるが、再就職の斡旋に関しての見解を伺う。共生社会を促進するための戦略的な人事異動が求められるが、どのような姿勢で臨むのか。

## 7 教育行政について

### (1) 熱中症対策について

校舎の長寿命化改修の際には断熱効果があり熱効率を上げる仕様を取り入れ、長寿命化改修に当たらない学校においては遮熱カーテンの設置などの対策が必要だと考えるが見解を伺う。

**答:教育次長** 近年酷暑が常態化・長期化する中、更なる熱中症対策が求められていることに加え、本市のカーボンニュートラルの実現に向け高効率の空調設備の導入のほか、建物の断熱化などによりエネルギー消費量を削減することが求められている。長寿命化改修工事に導入可能な断熱化の手法等について検討を開始しており、併せて検討を進める。

### (2) 不登校児童生徒への支援の在り方について

医療の視点を加え学校医との連携を進めてはどうか。「教育医療連携ネットワーク」を設置して、教育・福祉・医療など子どもに関する様々な分野が協力する体制を構築してはどうか。

# 福田ちえ 議会質問 通算27回目 令和5年9月議会、質問に立つ

9月7日(木)  
議会一般質問



←質問の  
録画映像



【質問・答弁】紙面の都合上、一部抜粋

## 1 認知症の本人とその家族が地域で安心して暮らせるまちづくり

明石市の「認知症あんしんプロジェクト」、大田区の「みま～も」と「高齢者見守りキーホルダー・高齢者見守りシール」の事例をもとに、認知症の早期発見につながる施策の充実と、認知症見守りグッズの工夫を求めた。

**答:市長** 他市事例も参考に、認知症の早期発見につながる施策の充実に取り組み、地域共生社会の実現に向け、地域で安心して暮らせるまちづくりを支援する。

## 2 誰も断らない宇都宮市の相談窓口と体制

なんでも気軽に相談できる共生型の地域包括支援センター「エールU」が設置されたが、市HPにもっと分かりやすく明示すべきと提言。

つながりサポート女性支援事業「つなサポ」やフードバンクなどへ、複雑多様化する相談が寄せられ、誰も断らない相談窓口の一翼を担っている。更に「つなサポ」は女性相談所の機能も一部担っていると言えることから、民間との連携を強化すべきと考え、市の見解を確認した。

**答:保健福祉部長** 複雑化・複合化する相談は円滑に「エールU」や多機関協働事業所へつなげるよう、研修会や重層的支援会議などあらゆる機会を通して情報共有と連携を強化する。「つなサポ」は様々な分野で活動する83団体との連携により相談体制を構築しており、重層的支援体制整備事業を推進する重要な役割を担うものと認識している。今後は女性相談所の職員が協力団体に直接出向き相談対応上の課題や相談者のニーズ把握を通して更なる関係性の構築を図りながら、女性相談・支援の充実・強化を図るとともに、事業を継続する。

## 3 フードバンク活動の普及と推進

食糧が再配分されるため、フードドライブ受付窓口は「ごみ減量課」と別の愛称が良いと提言。市が食糧を集め、再配分に関しては民間フードバンクが担える部分は民間へ委託してはどうか。生活困窮者の自立支援として、生活福祉課内にフードバンクの窓口を設置してはどうか伺う。

## 4 (仮称)子どもを守る都市宣言の具現化

宣言の実践に向けては、大人も子どもも話し合う機会を設けていく必要がある。また、学校に行けない児童生徒や特別な配慮を必要とする子ども・若者からも、丁寧な聞き取りを行うことを提言し、今後の対応を求めた。

川崎市が「川崎市子どもの権利条例」の具現化として「子ども夢パーク」を設置したように、本市における宣言の具現化について見解を伺う。

**答:市長** あらゆる機会を捉えた周知に取り組むことにより、家庭や地域で宣言について話し合う機会の確保に努めていく。配慮が必要な子どもたちからの意見聴取は、施設等へ出向いての意見の聞き取りなども含め、より効果的な手法を検討していく。宣言の具現化については、宣言の策定と併せて、新たな施策・事業についても来年度からの実施に向け検討を進めていく。

## 5 環境負荷を軽減する農業支援

空き家やビルを活用して次世代の循環型農業や宇都宮ブランドとして有機栽培とアクアポニックスを推進していくことについて見解を伺う。

## 6 人事制度の運用

福祉分野は特に退職職員にはこれまで培ってきた知識や経験の活用を図ってもらいたいと考えるが、再就職の斡旋に関しての見解を伺う。共生社会を促進するための戦略的な人事異動が求められるが、どのような姿勢で臨むのか。

## 7 教育行政について

### (1) 熱中症対策について

校舎の長寿命化改修の際には断熱効果があり熱効率を上げる仕様を取り入れ、長寿命化改修に当たらない学校においては遮熱カーテンの設置などの対策が必要だと考えるが見解を伺う。

**答:教育次長** 近年酷暑が常態化・長期化する中、更なる熱中症対策が求められていることに加え、本市のカーボンニュートラルの実現に向け高効率の空調設備の導入のほか、建物の断熱化などによりエネルギー消費量を削減することが求められている。長寿命化改修工事に導入可能な断熱化の手法等について検討を開始しており、併せて検討を進める。

### (2) 不登校児童生徒への支援の在り方について

医療の視点を加え学校医との連携を進めてはどうか。「教育医療連携ネットワーク」を設置して、教育・福祉・医療など子どもに関する様々な分野が協力する体制を構築してはどうか。